

- 1 会議名 全員協議会
- 2 日時 平成27年12月21日（月）
午前11時35分～午前11時55分
- 3 場所 第2・3委員会室
- 4 出席議員 全議員
- 5 説明員 総務部長奥村邦夫、建設部長西垣正則
教育こども未来部長山田日出雄
行政課長中村定秋、都市整備課長高橋 太、同主幹村瀬雅省
学校教育課長石川文子、同主査今枝かづき
- 6 事務局出席者 議会議務局長尾関友康、同主査田島勝己
- 7 議長あいさつ

8 報告事項

(1) 曾野小学校校舎耐震状況について

教育こども未来部長が概要を報告し、学校教育課長が詳細を報告した。

木村冬樹議員：平成20年度の地震防災特別措置法の関係で、学校施設が0.7以上でないといけないことであり、それ以前に実施した工事は数値が不足している解釈なのか。

学校教育課長：平成20年に実施したのは、市町村において耐震診断とその結果の公表が義務付けられたものであります。国は、平成18年から公表しております。基準となるIs値が0.6から0.7となったのは平成20年でなくそれ以前であります。

木村冬樹議員：一刻も早く基準に達しないといけないことであるが、曾野小学校で耐震改修を含む大規模改造工事を実施したときに、窓が塞がれて閉鎖感が出たと思う。今後の計画において、さらにそのようなことにならないか懸念している。廊下が暗くならないように外の光が入るように設計してほしいが可能であるのか。

学校教育課長：平成15年の大規模改造工事では、Is値を0.7にするために耐震壁を49枚入れると真っ暗になることを考え0.6で実施したものと思います。耐震壁でなく他の学校で実施しているブレスを入れる方法で今の明るさを最大限考慮した工法で実施したいと考えております。

関戸郁文議員：現在、近隣市町の小学校で0.7以下が存在するのか。

学校教育課長：把握できておりませんが、愛知県での耐震改修は全国的に進んでいる状況であります。

堀 巖議員：近隣市町ではわからないようだが、市内の他小学校の Is 値はどのようか。

学校教育課長：他の小学校は、耐震補強工事として実施していますので、0.7 以上あることを把握しております。

鈴木麻住議員：耐震診断を実施したのは平成 10 年であり、0.7 というのはわかっている。Is 値を 0.6 で補強したようだが、0.7 にすれば 47 枚の耐震壁を設けて補強をクリアするのであれば、診断する必要はないのかなど。新しい工法とか何とか得られるものがあれば、当然耐震壁も小さくて済む可能性がある。そういった点も含めてもう一度含めて診断するのか。

都市整備課主幹：今回の診断は、平成 15 年に実施したときの Is 値は 0.6 となっていますが、公的な機関で数値の確認はできておりません。診断を行わないと今後の補強計画が出てこないことになります。

鈴木麻住議員：耐震診断として設計を発注したのでなく、大規模改修の中での診断であり結果的にそういったことまで求めておらず、耐震診断の結果自体、数値が怪しいのか。

都市整備課主幹：0.6 自体の裏付けは、とられていません。

堀 巖議員：平成 10 年に 0.7 が必要だと内部で合意がされたということである。平成 15 年の工事に 0.6 にすることを含めて効率よく工事を進めると思ったが、なぜそうなったのか。

学校教育課長：合意でなく、平成 10 年の耐震診断が、Is 値 0.34 であり 0.7 をクリアするための補強案の提示があったものです。先ほど申し上げたように窓が壁になることもあったと思いますが、0.6 で大規模改造工事がされたと理解しています。

鈴木麻住議員：そのときに設計した事務所はどこなのか。

都市整備課主幹：改修工事は、大崎設計が設計しています。

大野慎治議員：委員会で総合計画のときに耐震診断 100 なのかとカルテのときに聞いたが、100 でないということに気が付いた時点で委員会審査の整合性に関係する。0.7 に満たさないのは、いつ気づいたのか。

教育子ども未来部長：県の調査のために調べていく中で、該当しないということがわかり、改修工事の際に業者との打ち合わせ書類を調べ直し、私のところに伝わったのは 10 月初めでした。県への報告期限が年内できちんと確認してからお話をさせていただこうと思っておりました。三役へ報告したのは先週でした。若干、総合計画の施設としての答弁時期では難しいところでありました。0.7 で公表していたのが 0.6 であった事実を把握するのに時間がかかったことはご理解をお願いしたいと思います。

木村冬樹議員：曾野小学校の保護者や市民に対する公表は、どのように考えているのか。

学校教育課長：公表することを考えています。時期については、県等と相談しながら決めていきたいと思います。

鈴木麻住議員：耐震診断を来年度にやり直すことであるようだが、今の数値の検証をすべきでないのか。規模がどれ位かで、計算の診断結果を見ることが出来る人に依頼すればある程度わかることでないか。もう一度、やり直す方法でなくてもよいのでないか。

都市整備課主幹：そのために耐震診断を行うことを考えていますが、平成10年当時の耐震診断では、委員会でもありましたがコンクリートのコア抜きを行って中性化試験をしておりませんし、補強後の検証等もしておりません。耐震診断を1からやり直ししなければならないと考えます。

宮川 隆議長：公表することが目的でなく、児童や保護者に不安を与えないよう的確に周知するよう申し添える。

黒川 武副議長：議長の申されるとおりよろしくお願ひしたい。

教育こども未来部長：きちんと対応したいと思っております。今まで耐震化済であったことを公表していましたが、途中経過を気づけなかったのは反省しております。申し訳ありません。今後は注意していきたいと思っております。

(2) その他

なし

9 協議事項

なし

10 その他

なし